

令和7年度 第8回江北町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和7年12月2日(火) 14:00~15:00
- 2 場 所 公民館2階講座室
- 3 出席者 下表のとおり

【構成員】

番号	役 職	氏 名
1	町長	山田 恭輔
2	教育長	牟田 久俊
3	教育委員	浪瀬 隆一
4	教育委員	江崎 陽子
5	教育委員	溝口 泰弘
6	教育委員	田中 薫

【こども教育課・学校づくり推進室】

番号	役 職	氏 名
1	課長(兼室長)	坂元 弘睦
2	課長代理	峯 清美
3	係長	金原 広和
4	主任指導主事	内川 梨恵子
5	主事	成清 大介

【事務局：総務政策課】

番号	役 職	氏 名
1	副町長	山下 宗人
2	課長	山中 博代
3	課長代理	小野 政己
4	係長	大塚 健司

- 4 議題 (1) 第4次江北町教育大綱(案)について
(2) 部活動地域展開について
(3) 学力向上の報告

○開会（山中課長）

(1) 第4次江北町教育大綱（案）について

【山中課長】

前回の総合教育会議で、頂いた意見を踏まえ修正をしたもの。特に異議等がなければ、総合教育会議後決定したい。決定後は議会にもお知らせする。

(2) 部活動地域展開について

【牟田教育長】

地域クラブ活動の推進に向けた町の方針については、国の財源確保が難航している。なかなか国から財源に関する方針が示されない。どこの市町もストップしている状態。ただ佐賀市を含むいくつかの市町が動きだしており、認定要綱だけを先に作成し、現状報告をする。

1. 国のガイドライン概要（改革実行期間 R8～R13）

6年間にやるべきことが示されている。これまで国が言ってきたことと大きくは変わらない。

- ・ 少子化・多様化に対応し、生徒の活動機会を将来にわたり確保
- ・ 認定制度の導入（活動時間・休養日・安全確保・低廉な参加費等の要件）
- ・ 指導者登録・研修制度の整備
- ・ 関係者（学校・自治体・民間・大学等）の連携強化
- ・ 市町村が責任主体となり、地域の実情に応じた多様な改革を進める
- ・ 大会等の参加機会の確保

2. 佐賀市の地域クラブ認定要綱（素案）

11月中旬に会議が開かれ、認定要綱の素案が示された。まだ決定ではなく、細部については2月に最終決定予定。

- ・ 「勝利至上主義」や「特定の生徒を対象とした選抜型クラブ」でないこと
- ・ 認定後の支援
 - ①活動場所の調整
 - ②指導者の紹介
 - ③広報活動

指導者の確保については、江北町も抱えている大きな課題である。最終素案では、国の支援は現時点では期待せずに、予算的・金銭的な支援については、国の支援策が決まってから別途協議するとのこと。町としては、

国の支援をただ待つのではなく、先に進めたいと考えている。教育委員会としては議会・町長に、必要な時に必要な予算をお願いすることとする。まずは、認定クラブの立ち上げにあたって、例えば、施設利用料の減免だけで手を上げるところもある、そういうところを積極的に支援していきたい。

3. 町の方針

- ・地域クラブ活動の認定取得に向けた支援策
認定要件（活動時間・休養日・安全・運営体制・学校連携等）を満たすためのサポート
指導者バンクや外部人材活用、研修・登録制度の導入
- ・学校、地域、民間、大学等との協働による活動場所、移動手段の確保
- ・生徒、保護者への情報発信強化（体験会・説明会等）
- ・財政支援や施設利用の優遇措置の検討、予算要求
- ・認定地域クラブ活動のメリット（公的支援・大会参加・情報提供等）周知

4. 今後のスケジュール

- ・説明会・意見聴取の実施（PTA、育友会、スポーツ協会、文化協会）
 - ・6年間のロードマップ策定
 - ・認定制度・指導者登録制度設計
- 個別に指導されている方の意見を聞いて、先に進めたいと思っている。停滞気味ではあるが、遅くとも新年度には地域クラブの募集ができるように準備を進めたいと考えている。

【山田町長】

教育長は、10月から就任し大変期待しているが、前と同じように進んでいるのではないかと。国や、他の市町の動きとかを共有するのはいいが、江北町としてどうするかが大事。先ほど停滞気味と言われたが、停滞していると思う。国頼み、国任せ、国、町ではなく、子どもたちにいろんな体験の機会を提供する中で、適正・興味・能力にめぐり合うものと思う。その意味でも部活動の充実という書き方をしている。それに少しでもつながるようになっているが、江北町はどうするのか。

今後のスケジュールも、何とかしなければと思っていることを書いてだけ。新年度からやろうと思うなら、何月・何日・何時に説明会をするなどが決まっていないとできない。3月議会で予算を上げないと4月からの仕事はできない。3月議会で予算を上げるには、いろんなことが決まっていなくて間に合わない。だから具体的に決めないと、説明会と意見聴取は一緒にはできない。決まっていることもないのに説明会は開けない。給食費の無償化も、子どもたちは今後減るため、江北町は永久に続ける必要はないと考えていた。福岡

市は無償化の予算は数十億円。ずっと続けるつもりがないためできる。国待ち国任せは改めるべき。やるべきことは具体的に速やかに決めてやるべき。いつからやると決めたらそれに向かってやったらどうか。

今回ネイブルの指定管理が「ミモザ」から「SK」に変わる。我々は入らず、外部の審査員に専門的な見地から審査をして頂いた結果であり、我々は受け入れないといけませんが、これは町にとっては大きな出来事。変わったからと、今までの教室が無くなったりして、町民に迷惑をかけてはいけません。この移行をいかに円滑に進めるかは町にとっても大事。教育委員会には決まった瞬間から、円滑な移行と「ミモザ」へのフォローに努めるように言っている。

また、議会が始まるが、B&Gはどうするか、老人福祉センターはどうするか等がある中で、今のところ新しいものを建てることにはしていない。今、江北町にある施設をいかに有効活用して江北町の住民に活動の場を提供するかがテーマ。ネイブルもさわやかスポーツセンターも空調が入っている。指定管理が新たに手が上がったのは、それだけ事業性が高まったから、例えばイベントをやるにも有利。事業が先立つと、ますます施設が少なくなったりして、ネイブルも町民の皆さんが利用できる機会が減ることが想定される。これも教育委員会に言っている。そういう中で地域クラブ等その中に組み込んでいかないとはいけません。2月の初めには、来年のネイブル等社会教育施設の使用予約の説明会をするということになる。だから町民の皆さんにいかにして活動の場を提供するかが決まっていなくて進めることができるのか。指定管理の変更はつながっている。少なくとも教育分野だけでもつなげて把握できているか。指定管理の変更は、大きな変わり目、曲がり角だと自分は捉えている。だから教育委員会に1つでも2つでも動いてほしいと思っているが、動きが見えない。後で混乱するのを承知の上で、手をつけていない。危機感を持っている。町の方針というほどのものはないが教育委員会の中でも協議してほしい。

【田中委員】

県はいろんな指導者のこともあるので早めにいろんなことを決めている。今、新しく若い方が入ってきているが、指導者として今動いていなくても、いろんな経験がある方やいろんなことをやってみたいと考えている人がいるように思う。自分から言わなくても昔陸上をやっていたという方もいると思う。そういう方々をどうやって発掘していくか。

【山田町長】

具体的に提示しないと反応してもらえない。来年の4月からというのは難しいと思う。登山口でもたついてもまだ全然登れていない。国も二転三転している。やるべきということは分かっているが、先延ばししたりしている。我々

もゴール、期日があるわけではない。内なる計画を持つべき。

【溝口委員】

地域クラブについては、私もいろんな部活動、運動クラブの指導者から「どうなっているのか？」と相談を受ける。自分たちは「まだ決まっていません」と言うしかない。結局早くしてくれないと体育館の使用料、指導者の確保等に際して問題がある、とたびたび言われる。なぜスピーディにできないのか、国や町の財源、人材等の問題があると思うが、まず、今までやったことないことをやるのであれば、足がかりとして相談窓口を設けるなり、チラシを作って広報に載せる等行い、一度話合う機会を持たないと先に進まない。1, 2年話し合いをしていて、全然進んでない。今までやったことのないことをやるのは難しいだろうが、先に立ち上げて、後から指導者・代表者の意見を加えて、肉付けするやり方でいいと思う。とりあえず認定して運動できる場所、子どもたちを集めることができる場所を確保してやるのがまず先ではないか。男子バレーボール部の話だが、体育館を使用するにしても、お金がかかるので、今は佐賀市の方の体育館に練習に通っている。佐賀市内の運動クラブは自分たちで補助金を探し出して工面しているという話を聞いて、自分たちもそれをやろうと思っている。財源ありきでなくても、出来ることから始めてみる。

【山田町長】

物理的にやってないから、いつまでも検討しないといけない。検討始めますというしかない。それを、やっていない言い訳とこれからもやらない理由に、国とか財源とか言われなくていいように最初から財源関係なし。国から無茶なガイドラインは出ない。行動に移さないのは検討してないから。

【溝口委員】

できるところからやっていいと思う。お金のかからないところで人を集めて運動する場所、機会を与えてやるだけで後から全体会議等で要望を聞いて肉付けするやり方でいいと思う。まず足がかりが大事。

【山田町長】

よくたたき台と言い、無闇に意見聴取というが、それは普段からやっておくべきもの。

【浪瀬委員】

地域クラブが、どんなものかイメージがわからない。それが見えないから、どこからどう手をつけていけばいいか、皆さんも困っているのではないか。金

が先か人員が先か施設が先か。

【山田町長】

どういものが「地域クラブ」なのか。基準をはっきりさせておくことが必要。何から手をつけていけばいいかわからないため、しばらく手をつけなくていいならそれでいいが、我々はそれに手を付けるためにいる。いろいろ方法はある。例えばモデル事業にする。そしてその中でルールを決める。しかし物理的にやっていない。頭と心と時間を割いていない、毎回この会議の時にやっているだけ。具体例の報告がない。

【溝口委員】

例えば、何かのイベントをやるときには、〇〇実行委員会、△△推進委員会を設けて、トップを定め委員会で話しを揉んで答えを出していくというやり方が一番話しが進めやすいのではないか。これまで自分たちが教育委員会で話し合いをしても進んでないのは、結局事務局にほぼ丸投げしているからではないか。教育委員会では何も話しが進んでないのが実情。現状報告がされているだけで、その先では今後どうするかがない。

【山田町長】

社会的な手抜きという言葉があって、人は集団でいると無意識のうちに手を抜いてしまう。自分事と思わないということがある。我々はそれではいけない。2, 3年前、地域移行の話しの時、地域移行検討委員会みたいなものを作って、〇〇区長・△△会長参加したがそんなものは今までたくさんある。結局事務局が案を作って諮って意見を聞くというものになる。

大きな町のテーマについては、誰がやっているかはっきりしておくべき。組織で責任は取るし、自分の職業人としてのグレードは上げていける。では部活動事業は誰がやっているのか。こういうことは決めてあげることが大事。こちらが責任も指示も管理もするという。他人任せにはしていない。教育委員会にはそういうのが欠けているのではないか。教育長にも言ったが、牟田教育長の経験があり、全て牟田教育長の仕事である。教育長が指示して連絡、連携を取りながらどんどん進めてもらっていいと言うと、「人が足りていない」と言われる。大変だが自分の仕事だと思ってやるべきだが、そういうものがない。当事者意識が欠けている。みんなで何とかしようとしている。進んでいないことに長い時間をかけている。

(3) 学力向上の報告

【牟田教育長】

学力向上の報告については、英検の 2 次試験の結果が出ているので別表で報告。

2 次試験は、21 人受けて、全員合格している。1 月 23 日に、中学 1 年生が自分の希望級で受験する。それに向けて学習会を、1 次向けに 3 回、2 次向けに 2 回開催する。令和 7 年度の英検の結果は最終のまとめができていないのでまとめて講評ができるようにしたい。

【山田町長】

これもまだ結果の取りまとめができていないということか。それも出し様だが大事な事だと思う。途中の段階でも出そうと思えば出せる。いつ出すかという議論ではない。結局今まで出し切れていない。せっかく町がやっていることだから、全部わかってからでないと思えないというのは残念。どのように総括し、どのように発表するかは大事。

【田中委員】

中学 3 年生の 1 次の合格率が 55.0%と低くて心配。

【山田町長】

中学 3 年生の 1 次の合格率が 55.0%なのに対して、中学 2 年生の 1 次合格率 81.1%、これはどう分析するのか。

【牟田教育長】

やはり中学 1 年生からの基礎ができていないという話を聞く。中学 2 年生に比べたら中学 3 年生は特に英語は落ち込んでいる。学習状況調査の結果もそうになっている。

【山田町長】

1 年間しか変わらない。中学 2 年生はできている。だとすると、中学 3 年生は中学 2 年生の時に躓いたということか。

【牟田教育長】

英語の先生に聞いても、中学 3 年生が基礎・基本ができていないという話で、その点で伸び悩んでいる。

【山田町長】

教えるのが何か違っていったのか。教える先生に問題は無かったか。これらの分析が必要。そうでないと、中学 3 年生が明らかに他学年に比べて劣ってい

ることになる。

【牟田教育長】

小学生の時からデータがありますので、しっかり分析して説明できるようにしたい。

【江崎委員】

一次と二次の間に勉強会等あったのですか。

【牟田教育長】

2次試験に向けて行った。2次試験は、個別に英語で面接もあるので、対応できるように。

【山田町長】

現在、町では来年度予算をどうするかを協議しているが、予算をどうするかということは、どんな仕事をするかということ。生かさないといけない。前と同じようにしたら、同じような結果になる。

【田中委員】

江北小学校は周辺の学校に比べたら、大きい方だということで、新しい若い先生がどんどん2人ずつ入って来られる。新採の方もいる。そして全体の先生方が若返っている。それはそれでいいこともあるが、ベテランの先生がいなくなり、いいことを学ぶ機会が少なくなっている不安を感じる。今までいいことを伝えてもらっていた叱り方、指導の仕方等、実際に現場でベテランの先生から学ぶことは貴重。叱り方等だんだん下手になっていると思う。

【山田町長】

それは教育委員会メインのテーマ。人事は教育長がもっておられますので教育委員会の中でぜひ議論して頂きたい。4月の辞令交付でも新採の方が何名かいた。

【田中委員】

ベテランの先生がどんどん少なくなってきた、指導の仕方を学ぶ機会が少なくなっていると思う。いろんなところから来られて、指導をしてもらっていると思うが、勉強会だけでなく、日常的に普段の学校生活で習得されることは結構あるのではないかと。そういう機会が少なくなっているのではないかと。

【牟田教育長】

私も同じように感じていた。毎年、中規模校には新採が2名ずつ入ってきて、4年間いる。すると4年間のうちにベテランが8名新採と入れ替わる。後の補充もできていない。人材不足もありますが、もう一度教育事務所と交渉して人材確保に努めたい。

【田中委員】

若い先生がいるということは、結婚して出産する先生もどんどん増えていくので、産休の方も増える。子どもを産む個人の幸せを尊重しながら、生徒たちの生活を見守るベテランの先生方もいてもらわないと、産休で途中から代わります、となれば、子どもたちも不安を感じる。来年、休まれる先生も決まっていると思うので、その辺お願いしたい。

【山田町長】

市町の教育長で、教員経験者でない人はいるのか。

【牟田教育長】

いない。

【山田町長】

そのうち、義務教育出身者でない方は？

【牟田教育長】

20市町のうち、私を含めて3名が、県立高校出身。

【山田町長】

西部の市町の中で言えば。

【牟田教育長】

私と太良町の教育長だけ。

【山田町長】

否定的に言ったらいけないが、皆さん、かつて職場の同僚だったり、上司と部下だったりしている中で、人事は決めていかねばならない。わが町はそんななれ合いに影響されない教育長だと思っている。義務教育出身でないから。だから、他のところに食い違いがあるかもしれないが、例えば新採枠は1人にしてほしいとか、あまり遠慮せずと言ってもらえるのではないかと期待している。教育委員さんからの意見でありしっかり受け止めてほしい。

○閉会（山中課長）